



夏休みが近づくころ…

校長 中基 信夫

いよいよ7月に入りました。夏休みが背中越しに見えてきました。いつの時代でも「夏休み」という言葉を耳にすると、わくわくしてきます。これは大人になっても同じです。考えてみると、私は小学校1年生の7歳から現在に至るまで、“学校”という世界の中で生きてきました。半世紀以上も…です。ですから、一般の方よりも特別に「夏休み」という言葉に惑わされるのかも知れません。

中学校の時は部活漬けの夏…。仲間と何日も着た練習着の汗臭さを競ったりしては笑い転げていました。さすがに3年生は受験勉強の夏…。前にも述べましたが、この受験勉強という単語を聞くと真っ先に浮かんでくるのが「睡魔」という単語…。私の受験勉強は睡魔との闘いであって、ものを覚えるという以前のレベルだった気がします。当然なかなか結果が表にでず、やっと見えてきたのはクリスマスの頃だった気がします。

過日、新聞を読んでいたら、どこかの町では夏休みを10日程度にし、他は授業日にするという記事を見つけました。その分、普段の日の時間割を短くし、放課後の時間を多く確保するそうです。メリットはありそうですが、「なんだかなあ…」と小声でつぶやいてしまいました。



1年校外学習